

## 国連世界食糧計画（WFP）を通じたジンバブエ無償資金協力事業の引渡式の実施

11月4日、田中大使は、中央マシヨナランド州マウントダーウィン郡で行われた、WFPを通じたジンバブエ無償資金協力事業（令和2年度補正予算）の引渡式に出席しました。日本政府からの125万米ドル（約1億4千万円）の支援により、2021年3月に開始されたこの事業は、マウントダーウィン郡及びマトボ郡の最大2,200の脆弱な世帯（約11,000人）を対象に能力強化を図り、食料・栄養面での安全保障を改善するとともに、季節的なショックに対するコミュニティの解決策強化に貢献しました。

日本大使館、ジンバブエ政府中央マシヨナランド州、WFP、関係NGO（ワールドビジョン）等の代表者は、引渡式参加のため、事業実施地区の一つであるマウントダーウィン郡カニョカ地区を訪問しました。

ジンバブエ政府を代表し、マレグレ州開発局代表は、「食料安全保障はジンバブエ政府が定めた国家開発戦略1における優先事項の一つであり、WFPを通じた日本政府の貢献は、その目的を達成し、誰一人取り残さないことを確保することに役立っており、このパートナーシップを高く評価する。」と述べました。

カニョカ地区の住民は、WFPによるFFAプログラムを通じて行った作業を誇りに思うと述べています。彼らは、農園、ソーラー発電により稼働するポンプ、家畜から農産物を守る柵の設置など、共同で利用する資産を的確に建設し、修復しました。また、環境管理や営農技術の改善に関する研修を受け、将来に向けた技能と能力の強化を図りました。FFAは、食料支援により最も脆弱な人々に当座の食料アクセスを提供するだけでなく、食料ニーズを充足する強靱性を強化することにより、農村コミュニティの長期的な食糧安全保障の強化を図っています。

田中大使は、「過去10年間に相次いで経験した干ばつにみられるように、気候変動は深刻であり、残念ながらこの地域でも顕在化しています。そのため、この地域のようなコミュニティにおいて強靱性を高めることが不可欠です。このプロジェクトにより得られた資産は、そのための役割を果たすでしょう。」と述べました。

WFPジンバブエ事務所副代表は、「WFPはパートナーと緊密に協力して、農村地域の脆弱な人々に対処しています。日本政府は、2017年以来FFAプログラムに580万米ドルを支援し最大12,800世帯（約64,000人）に貢献しました。これら支援は、短期的及び長期的な食料不安への対処に役立ちました。」と述べました。

FFAプログラムは、慢性的に食料不安となっている地区で実施されています。プログラム参加後、カニョカなどのコミュニティは、自立するために必要な資産と技術を獲得しました。しかしながら、ジンバブエにおいては、ポジティブな成果にもかかわらず、プログラムに対する資金は不足しています。



田中大使によるオレンジの植樹



カニョカ地区に設置された農園



田中大使によるスピーチ



式典に参加した地域住民



食料（メイズ、油等）の引渡



先行F F A地区（ニャクツングマ地区）における  
野菜等の栽培状況